議案第 21 号

令和6年度名張市教育委員会事務の点検･評価について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和３１年法律第１６２号）第２６条の規定に基づく、令和６年度名張市教育委員会事務の点検・評価について、別紙のとおり作成する。

令和　６年１１月　６日提出

名張市教育委員会
教育長　西　山　嘉　一

名張市教育委員会事務の点検・評価報告書

令和６年１１月

名張市教育委員会

名張市教育委員会事務の点検・評価について

本市では、総合計画「なばり新時代戦略」第１次基本計画（期間：令和５～８年度）に掲げた各施策を進めるに当たり、「行政評価」により計画の達成度や効率性などの客観的な評価を行いながら、計画目標の達成に向けて効果的・効率的な行政運営を進めています。

教育委員会では、市が実施する行政評価の結果や施策評価管理シート等の基礎資料を活用し、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、「名張市教育委員会事務の点検・評価報告書」を作成し、公表することとしています。

教育委員会は、総合計画に掲げる基本構想「変化をおこし　活力あふれ　みんなでつくる　大好きなまち　なばり」の実現に向けて、基本施策の７つのうち、「はぐくむ」、「つなぐ」、「つくる」、「ととのえる」の中で、４つの施策を担当しています。

本報告書は、令和６年５月（令和５年度実績）に作成した施策評価管理シートを基に総合計画「なばり新時代戦略」第１次基本計画の施策指標（目標）の達成状況や行政評価委員会のヒアリング等を踏まえ、再点検を行い、作成しました。

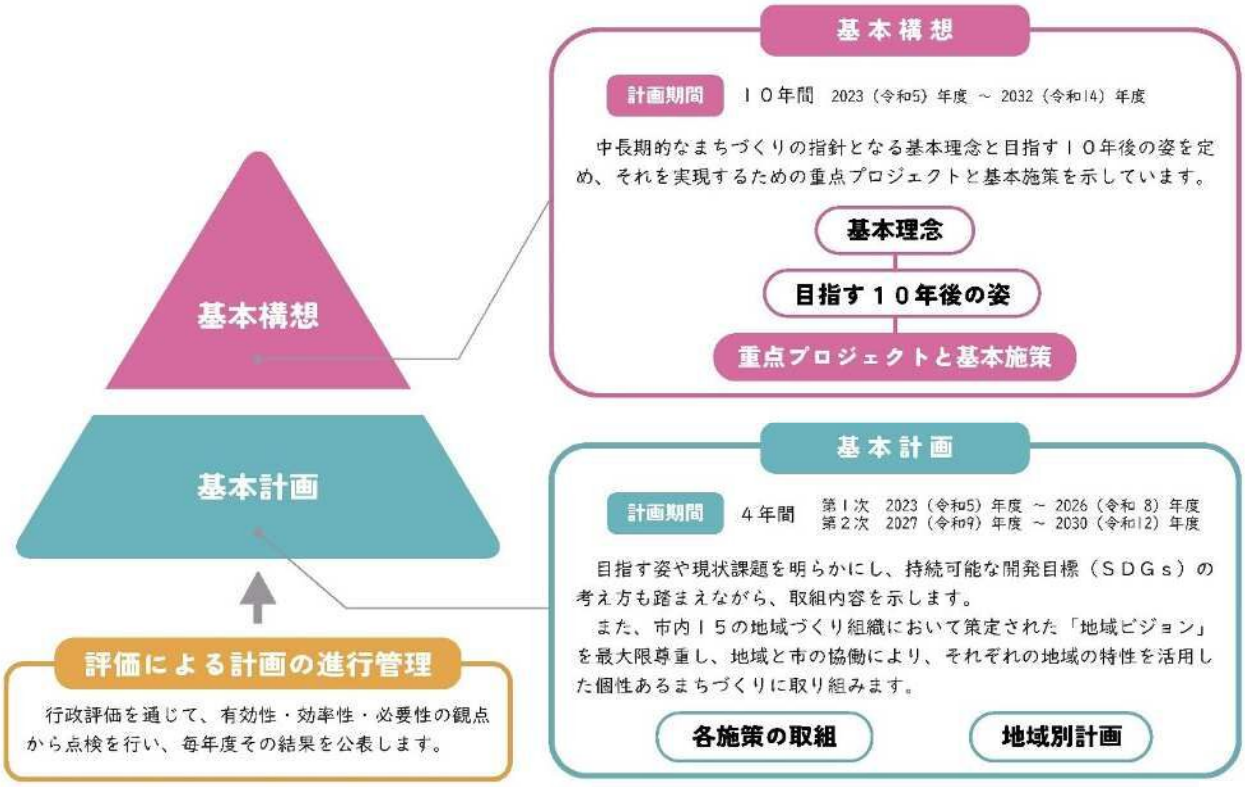
注）本資料にて記載されている進捗率は、施策指標（目標値）に対し、当該年度（実績値）が総合計画の基本計画策定時（現状値）からどれだけ伸びているか（減っているか）指標の進み具合を次の計算式により数値化したものです。

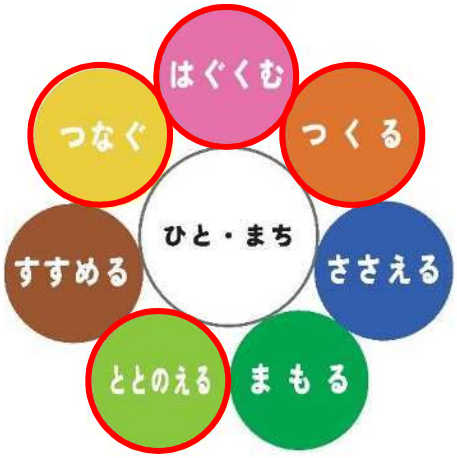
（計算式）　$\dfrac{\text{実績値（２０２３（令和５）年度）} - \text{基準値}}{\text{目標値（２０２３（令和５）年度）} - \text{基準値}} \times １００$

令和６年度　教育委員会事務の点検・評価項目　目次

〈施策１〉はぐくむ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４頁
〈施策２〉つなぐ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８頁
〈施策３〉つくる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１頁
〈施策４〉ととのえる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１４頁
基本目標全体に対する総評・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７頁

〈参考 名張市総合計画「なばり新時代戦略」（抜粋）〉





はぐくむ

学校で元気な「ばりっ子」をはぐくみます

１.この施策で目指すもの

「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」に基づく就学前教育を進め、小学校への円滑な接続を図ります。

また、義務教育９年間を見据えた教育活動において、系統性・連続性を確保した小中一貫した教育を推進すると同時に、一人一人の個に応じた指導や支援を行う教育実践を進めます。

２.取組内容

○ 小学校教育への円滑な接続を目指した就学前教育を実現するための取組を進めます。
○ 義務教育９年間を通じて、児童生徒の発達に合った学びの実現に向けた取組を進めます。
○ 一人一人の教育的ニーズを把握し、特別な支援を必要とする児童生徒の自立のための取組を進めます。

３.主な取組と成果

市内全ての幼稚園・保育所（園）・認定こども園に元小学校教員である「ピカ１先生」と幼児教育アドバイザーが年間４回巡回しました。また、「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」に基づく保育実践を広めるとともに、幼（園）児の小学校入学に対する期待感と安心感を高めることができました。小中一貫教育については、各中学校区が主体となって取組を進め、中学校区の担当者会議等に担当指導主事が参加し、各中学校区における進捗状況や年間の取組を確認しました。また、小中一貫教育を更に推進・充実させるため、８月に中学校区ごとに全教職員が参加する「小中一貫教育推進研修会」を開催し、取組の確認や課題克服のための研修を深めました。

通常学級において特別な支援を必要とする児童生徒の個別の支援計画を作成し、途切れのない支援や個に応じた適切な手立てを行うなど、有効活用することができてきました。また、必要に応じて、２次支援、３次支援につなげ、各機関と連携を図りながら支援を進めることができました。加えて、名張市特別支援教育システムに基づき、チーフコーディネーター、教育センター教育専門員、特別支援教育スーパーバイザー等による学校巡回を実施し、校内支援体制の強化を図ることができました。

４.施策指標（目標）の進捗及び達成状況

評価する内容		基準値	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	進捗率
学校満足度調査による満足群にいる児童生徒の割合（%）	目標	—	—	—	—	71.0	
	成果	69.0	71.2	—	—	—	100%
全国学力・学習状況調査による「自分にはよいところがある」と思う児童の割合 【小学校】(%)	目標	—	—	—	—	81.0 (86.0)	
	成果	76.6	84.4	—	—	—	※100%
全国学力・学習状況調査による「自分にはよいところがある」と思う生徒の割合 【中学校】(%)	目標	—	—	—	—	82.0 (87.0)	
	成果	78.6	85.7	—	—	—	※100%

通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童のうち、個別の指導計画を保護者の合意のもとに作成している割合【小学校】（%）	目標	—	—	—	—	88.0 (90.0)	
	成果	86.1	88.6	—	—	—	※100%
通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童のうち、個別の指導計画を保護者の合意のもとに作成している割合【中学校】（%）	目標	—	—	—	—	51.0 (64.0)	
	成果	25.0	62.9	—	—	—	※100%

※　目標値に達したため、目標値を（）に再設定いたしました。

５.施策達成のために取り組んだ主な事務事業

No	事務事業名	担当室名	概要及び目的	今後の方向
1	小学校ＡＬＴ派遣事業	学校教育室	市内１４小学校専属の外国語指導助手を３人配置し、外国語活動の時間にネイティブスピーカーと接することで、コミュニケーション能力の育成及び国際理解教育、外国語活動の充実を図りました。	継続
2	中学校ＡＬＴ派遣事業	学校教育室	市内５中学校にＪＥＴプログラムによる外国語指導助手を派遣するとともに、小・中学校の円滑な学習の接続を目指し、小学校の外国語活動の支援を行いました。さらに、幼児期からのコミュニケーション力育成のために保育所にも支援を行いました。	継続
3	コミュニティ・スクール推進事業	学校教育室	学校運営協議会の運営の活性化に向けて、教育委員会事務局職員が伴走支援を行うとともに、関係部署との連携を図りました。また、小中一貫コミュニティ・スクール推進協議会では、講師に山口県地域連携教育エキスパートを招へいし、これからの学校と地域の在り方について講演いただきました。加えて、今後のコミュニティ・スクールを更に推進・充実させていくために必要な協議を行いました。	継続
4	生徒指導充実推進事業	学校教育室	学級満足度調査（Ｑ－Ｕ調査）等を活用した、学級集団や学年・学校の集団づくりを通して、いじめや不登校が生まれない望ましい人間関係づくりの取組を進めました。また、学校の教育活動全体を通じて、他者理解や自己有用感等を高める取組を行い、いじめや不登校等の未然防止を図りました。	継続
5	教育研究事業	教育センター	教育センターの「子どもの育ち・学びへの支援」「教育に関する調査・研究」「教職員への支援」「学校と地域や家庭との連携への支援」「教育情報・資料の収集・提供」の五つの機能に基づく事業を実施しました。	継続

６.成果を踏まえた課題や現状

○ 「ピカ１先生」２人と幼児教育アドバイザー４人が巡回する中で就学前に保育実践を広めるとともに、就学後の学校現場でも教職員がその実践を意識し、更に生かし、伸ばすことができるように取組を深める必要があります。

○ 中学校区ごとの課題に対して「名張市小中一貫教育推進方針～縦の接続を重視した教育の推進～」を活用し、各中学校区の現状を踏まえた研修会を充実させ、教職員の意識の向上を図るなど、更に小中一貫教育の推進を図っていくことが必要です。

○ 学校運営協議会において、育てたい子どもの姿や地域の役割、在り方についての熟議が活発に行われ、学校教育目標やめざす子ども像の実現に向けた保護者・地域との連携・協働を進めることが必要です。そのために、研修会等を通じて熟議の在り方や視点等を学ぶ機会を設けたり、教職員や子どもの声を反映させ、地域の特色を生かした取組が行われたりするよう学校に働き掛けるなど、コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動の一体的推進に向けて更なる支援を行っていく必要があります。

○ 個に応じた支援や切れ目ない支援の大切さを研修会等で発信し、個別の指導計画の必要性を伝えるとともに、丁寧に保護者の合意を得ることで、作成率を上げることができました。また、通常学級において、特別な教育的支援を必要とする児童生徒が増えている中、名張市特別支援教育システムを有効に

活用するとともに、個別の指導計画や個別の教育支援計画を活用して支援を進めている事例は増加しています。引き続き、保護者と連携しながら、継続した取組が必要です。

○ 学習用タブレット端末をより効果的に活用し、児童生徒の情報活用能力の育成や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を更に目指す必要があります。また、学校ＩＣＴ環境を活用した学びの質の向上と教職員の働き方改革の推進を目指し、学校ＤＸ（デジタルトランスフォーメンション）を一層進める必要があります。

○ 不登校児童生徒の増加に伴い、学校に代わる学びの場としての教育支援センター（さくら教室）の在り方や、多様化するニーズにどう対応していくのか検討していく必要があります。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも連携し、訪問型支援を更に推進していく必要があります。

○ 安心安全な教育環境を維持していくため、計画的な施設改修を行っていく必要があります。特に、学校トイレの洋式化については、喫緊の課題として、引き続き、令和６年度に児童生徒が利用する校舎内トイレの洋式化率１００％を目指して整備を進める必要があります。

○ 生徒の心身の健全な発達のため、令和９年度中を目途とした中学校給食実施に向けて、関係機関と連携し、計画的に取り組む必要があります。

７. 今後の方向性

○ 現行の「ピカ１学級」の取組を通じ、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を見据えた教育・保育を更に進めていきます。引き続き、入学後の小学校巡回訪問の実施や「ピカ１学級」の取組の充実を図ります。また、連携を一層確実なものにするために、カリキュラムに基づく幼児の小学校生活の体験学習をはじめとして、教職員の研修や小学校教員の保育所（園）・幼稚園等のピカ１学級の参観、幼児教育施設長代表と小学校校長会代表の意見交換会等の情報交換の充実を図ります。

○ 令和の日本型教育の構築を目指し、学校ＤＸの具体的プランニングや推進のために、名張市ＧＩＧＡスクールアドバイザーを引き続き市内全ての小中学校に派遣します。

○ 小中一貫教育を推進するために、「名張市小中一貫教育推進方針～縦の接続を重視した教育の推進～」を活用し、各中学校区の校長会議や担当者会議に指導主事が参加し、伴走支援をするとともに１１月下旬に実施する（仮称）小中一貫教育推進シンポジウムで、広く市民に発信します。

○ コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に向け、教育委員会事務局として学校からの相談に応じ、また、地域への働き掛けを丁寧に行うなど、活動を推進するための支援を行います。

○ 自他の人権を大切にし、他人を思いやる心の育成や、人との出会いを通じて自尊感情の高まりを促す取組等、教育活動全体を通じた取組の推進を図ります。また、学校・家庭・地域社会が一体となった人権教育の総合的な取組を行い、地域全体で人権意識を培い人権尊重の精神を高め、子どもたち一人ひとりを大切にした教育の充実を図ります。

○ 平和教育を推進するために、市内各中学校からの代表生徒「なばりピースメッセンジャー」を募集し、平和を考える学習会や懇談会等を通して学びを深め、取組の企画・実践を重ねる中で、市民に向けて平和メッセージを伝えていく活動を進めます。また、市内小学校に講師を招いて、平和の尊さを伝える紙芝居を上演したり、沖縄平和啓発プロモーション事業に応募したりするなど、市内中学校で出前授業の実施をしていきます。加えて、外部講師の招へいやなばり学での取組を充実させるとともに、学習した内容を学校内外に発信し、平和の大切さを伝えていきます。

○ 基本理念である「語れるまち なばり」を具現化するために、地域への関心を高め、伝統や文化を引き継ぐとともに、次世代の地域の担い手を育成することにもつながるよう、名張を知り・体験し・楽しみ、名張を考え・語り・行動できるよう、ふるさと学習「なばり学」の取組を一層推進します。

○ 特別な教育的支援を必要とする児童生徒は増加傾向にあります。また、若い教職員が増えていることを踏まえ、全ての教職員が特別支援教育についてより深く学ぶ必要性が増しています。障がいのある

子どもの教育的ニーズを的確に把握し、切れ目ない支援をしていくために、引き続き、事例検討会を通して教員のスキルアップを図るなど、研修会の充実を図ります。また、名張市特別支援教育システムを有効に活用し、関係諸機関と連携した取組を進めるとともに、発達検査を実施したり、スーパーバイズ等、福祉や医療の専門家等の講師を招へいしたりすることで、特別な支援を必要とする児童生徒への有効な支援に役立てていきます。さらに、保護者と連携しながら個別の指導計画を有効活用し、個に応じた支援の充実を図っていきます。

○ ＧＩＧＡスクール構想に基づき導入した学習用タブレット端末を、授業だけでなく行事や家庭学習、学びの機会の提供等に効果的に有効活用するなど、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向け、教職員の研修を進めます。

○ 教育支援センター（さくら教室）では、ゆっくりと安心できる居場所を保障し、個別活動や集団活動を通して、一人ひとりのニーズに応じた支援を行います。毎週水曜日のチャレンジｄａｙには、今の自分より１歩踏み出すことにチャレンジし、学校や保護者とも連携を図りながら、学校生活への復帰あるいは社会的自立につながる支援を行っていきます。さらに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも連携し、訪問型支援を円滑に進めていきます。

○ 多くの学校施設は経年劣化により老朽化が進んでいることから、計画的に施設整備に取り組んでいきます。また、多目的トイレ整備や屋外、プールのトイレ等の洋式化を進めて行きます。

○ 令和９年度中を目途とした中学校給食の実施に向けて、給食センターの整備運営事業者を選定するための要求水準書等の作成等、事業者の公募に向けた取組を進めます。

平和学習（中学校２年生）

平和紙芝居（小学校６年生）

授業の様子（小学校２年生）

つなぐ

文化をはぐくみ、次世代につなぎます

１.この施策で目指すもの

文化に触れる機会を、より多くつくることで、文化への意識向上を図り、地域文化の更なる発展を目指します。

また、史跡や能楽などの多様な文化資源を活用し、地域の魅力を発信することで、郷土への誇りと愛着心を高めます。

地域固有の伝統文化を守り、継承するとともに、それを発展させることで、地域の活性化を図ります。そして、伝統文化を通じて、地域間のつながりを強め、人間味あふれるまちづくりを目指します。

２.取組内容

○ 魅力ある市民文化を育み、豊かな心と文化の息づくまちづくりに取り組みます。
○ 文化財を適切に保護し、文化資源を活用したまちの活性化に取り組みます。
○ 伝統文化等を継承し、郷土に誇りと愛着が感じられるふるさとづくりに取り組みます。

３.主な取組の成果

郷土資料館では、常設展示に加え、企画展を４回開催し、名張の歴史や文化等の魅力を発信しました。また、文化財の指定・登録においては、清風亭玄関等棟、客室棟が登録有形文化財に登録され、市指定文化財石造五輪塔（丈六寺）が県指定文化財丈六寺の五輪塔として指定されました。

地域の伝統芸能を守り、引き継ぐための事業として、名張市市制７０周年及び名張市観阿弥顕彰会創立５５周年記念として、令和５年１１月１８日に「名張能楽公演」を開催しました。出演者による事前学習会を実施するとともに、市内の中学校を対象にアウトリーチによる授業も開催し、能に触れる機会を提供しました。令和６年３月には「名張子ども伝統芸能祭り」を開催し、市内で活動する５団体、２９名の子どもが出演しました。そのほか、「名張市観阿弥顕彰会」と連携した「観阿弥祭」を開催し、市民が「能文化」に触れる機会の創造に努めました。

特別天然記念物オオサンショウウオ緊急調査事業については、生息調査指導委員会の指導の下、特別天然記念物である在来種のオオサンショウウオを保護するため、河川からの交雑種の駆除を目的とした調査を平成２５年度より継続して行っています。継続した調査の結果、近年では滝川上流域における交雑種は確認されず、滝川において新たに捕獲される交雑種の全長が小型化の傾向が見られるなど、調査を継続することによる成果が出ています。

４.施策指標（目標）の進捗及び達成状況

評価する内容		基準値	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	進捗率
市民による自主的な文化芸術活動が活発に行われていることで､身近に文化や芸術に接する機会があると感じている市民の割合（%）	目標	―	―	―	―	42.0	
	成果	37.5	38.9	―	―	―	31.1%
青少年センター､名張藤堂家邸跡､夏見廃寺展示館､郷土資料館の年間入場利用者数（人）	目標	―	―	―	―	45,000	
	成果	36,015	38,615	―	―	―	78.9%
名張市美術展覧会の出品数（点）	目標	―	―	―	―	155	
	成果	129	136	―	―	―	26.9%

５.施策達成のために取り組んだ主な事務事業

No	事務事業名	担当室名	概要及び目的	今後の方向
1	オオサンショウウオ緊急調査事業	文化生涯学習室	平成２５年から継続して特別天然記念物オオサンショウウオ緊急調査を行いました。調査の内容は、特別天然記念物である在来種のオオサンショウウオを保護するため、生息調査指導委員会の指導の下、河川からのチュウゴクオオサンショウウオとの交雑種の駆除を目的とした調査と、捕獲した交雑種の隔離飼育となります。	継続
2	ふるさと能文化振興事業	文化生涯学習室	観阿弥創座の地である名張市の能文化をはじめ、地域に根付く古典芸能などの文化を守り、後世へ引き継いでいくための事業を行いました。地域で活動する振興団体が活動する場を提供し、市民が、伝統的な文化に触れる機会の創造を行いました。具体的には､「観阿弥祭」「名張能楽祭公演」「名張子ども伝統芸能祭り」の開催、また、小波田地区で活動する「名張子ども狂言の会」を指導していただいている茂山七五三先生が出演する舞台へ会員たちが出演するなど、名張市以外での活動も行いました。	継続

６.成果を踏まえた課題や現状

○ 文化振興事業への若者の参画が少なく、高齢化が進んでいます。その傾向は、『４.施策指標（目標）の進捗及び達成状況「名張市美術展覧会の出品数」』にも表れています。令和５年度出品数１３６点のうち、１０代～５０代の作品は３５点と少なく、市展の作品出品や、市民文化祭の発表の場などで、若年層の積極的な参画を促す必要があります。

○ 特別天然記念物オオサンショウウオ緊急調査事業においては、調査を継続することで、交雑種の割合を低く抑え、在来種を保護するという一定の成果があるものの、河川からの完全駆除には至らず、河川下流から他の河川への交雑種の流出も懸念されています。また、オオサンショウウオの交雑種が令和６年７月に特定外来生物に指定されたことにより、交雑種の隔離飼育については新たに定められた飼育の基準を順守する必要があります。

○ 文化資源の活用については、市民はもとより市内小中学校の学習にも応じられるよう、教育センター等教育関連施設や郷土史研究者等の協力を得て、ニーズに応じた効果的な企画展等を実施する必要があります。

○ 能をはじめとした古典芸能に取り組む団体の会員数が減少しており、新規の会員が集まりにくくなっています。会員を募集する工夫や、関心を高めるための施策が必要です。
○ 市史編さん事業においては、前回の市史刊行から１２年が経つため、現在活動中の「中世編」「民俗編」の刊行に向けた取りまとめが急がれます。

７.今後の方向性

○ ａｄｓホールについては、指定管理者と連携し、自主事業等の実施を促進するほか、活用可能な助成金等を利用し、魅力的な文化ホールの運営を目指します。
○ 観光、まちづくり等、多様な機会において、文化を核とした事業実施を行える仕掛けづくりを行うとともに、文化に触れる機会を創出することで、文化あふれる豊かなまちづくりに向けた取組を進めます。
○ 郷土資料館をはじめとする文化財関連施設の令和５年度の年間来館者数は、令和４年度と比較すると横ばいとなっており、今後、地域や関連団体、教育センター等関係機関と連携するとともに、展示の充実、広報の強化等を行い、文化資源の一層の活用に努めます。
○ 名張市美術展覧会への若者による出品数を増やすために、市内高等学校美術部等に働き掛け、出展を促すなどの取組を進めます。また、名張文化協会と連携し、文化発表の機会に、若者が参画できるように、学生の発表時間を作るなどの工夫をします。さらには、伊賀市文化都市協会にも協力を仰ぎ、文化施設を活用した展示などの新たな取組を進めます。
○ 特別天然記念物オオサンショウウオ緊急調査事業については、生息調査指導委員会の指導の下、引き続き実施します。あわせて、市内小中学生を対象に、郷土資料館見学の受入れや出前授業等を実施し、環境教育を進めます。
○ 名張市が観阿弥創座の地であることを市内外に継続的に発信し続けるとともに、能楽及び古典芸能などの文化を守り、市民の関心を高める取組を進めます。また、文化庁の伝統文化親子教室事業助成金を活用し、小中学生を中心とした、子どもたちが和文化の体験をできる事業を開催するなど、伝統的な和文化に関心を持つよう取組を進めます。
○ 市史編さん事業については、「中世編」「民俗編」の刊行に向けて、収集資料の整理を行うとともに、委員会を開催し、内容の調整及び方向性の検討を推進します。

郷土資料館見学

子ども狂言

つくる　青少年の健全な育成環境と生涯学習社会をつくります

１.この施策で目指すもの

生涯を通じて学ぶことができる環境の整備、多様な学習機会の提供及び、学習成果を活用した活動の場の提供が図れるよう取組を進めます。

また、青少年を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中で、心身ともに健全にたくましく成長していけるよう、学校・家庭・地域等が連携して青少年の健全育成に取り組みます。

２.取組内容

○ 生涯学習ネットワークを構築し、市民が自己実現できるよう取り組みます。
○ 青少年の健全育成を関係機関と連携し、子どもを守り育てる取組をすすめます。
○ 図書館サービスの３要素（施設・人・資料）の充実を行い、様々なサービスの提供に取り組みます。

３.主な取組の成果

生涯学習講座については、連続講座「なばりカレッジ」を開催し、名張の歴史や文化、環境についても学ぶ講座を実施しました。名張の文化等に触れる講座だけでなく、企業と連携した「スマートフォンの体験型講習会」も実施するなど、ＩＣＴを取り入れた講座も開催しました。

放課後子ども教室は新たに１教室が立ち上がり、７地域８小学校区で子どもたちが心豊かに育まれる環境づくりや子どもの地域での居場所づくりの推進を図ることができました。

図書館においては、「妖怪マップ展示」や「図書館で健康づくりプロジェクト」など、新たな企画展示やイベントを実施するなどサービスの向上に努めたところ、入館者数が昨年度に比べ１４，５０１人増加しました。また、「名張市デジタルアーカイブおきつも」サイトを公開し、郷土資料の活用促進を図りました。

４.施策指標（目標）の進捗及び達成状況

評価する内容		基準値	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	進捗率
目的を持って生涯学習に取り組んでいる市民の割合（%）	目標	—	—	—	—	50	
	成果	42.3	42.9	—	—	—	7.8%
放課後子ども教室設置数(教室)	目標	—	—	—	—	9	
	成果	6	7	—	—	—	33.3%
市民一人当たりの年間図書貸出冊数（冊）	目標	—	—	—	—	6.5	
	成果	4.9	5.0	—	—	—	6.3%

５.施策達成のために取り組んだ主な事務事業

No	事務事業名	担当室名	概要及び目的	今後の方向
1	放課後子ども支援事業	文化生涯学習室	子どもの居場所づくりを主眼とした放課後子ども教室について、令和５年度は名張、錦生、赤目、桔梗が丘、川西・梅が丘、百合が丘、つつじが丘の７地域で取組を進めました。	継続
2	青少年健全育成事業	文化生涯学習室	全市的な補導体制や健全育成体制を充実させるため、関係機関や市民と連携・協働し、青少年健全育成活動を行いました。	継続
3	二十歳のつどい 行事経費	文化生涯学習室	新成人に大人としての自覚や責任ある行動、社会参画の意識を持たせるため、式典を行いました。	継続
4	郷土関連資料デジタルアーカイブ化事業	図書館	本市が有する郷土資料（文化財及び関連資料、図書資料）をデジタル化、データベース化しＷｅｂ上で公開を行いました。 ・「名張市デジタルアーカイブおきつも」サイトの公開 ・図書館情報システムにおける郷土資料館蔵書のデータベース化	継続
5	学校支援地域本部事業	文化生涯学習室	各地域で学校の求めに応じて必要な支援を地域のボランティアが行う体制を構築するため、ボランティア活動に取り組んでいただける団体を募り、ボランティア派遣を行いました。	継続
6	生涯学習推進事業	文化生涯学習室	市民の郷土愛の醸成、ボランティアの育成のため生涯学習講座を実施しました。	継続

６.成果を踏まえた課題や現状

○ 市民センター等が、地域住民の身近な学びの場としての機能を支援できるよう、生涯学習推進協議会で地域活動についての実践交流会や情報交換等をすることにより、取組の広がりができてきました。あわせて、高度化する住民ニーズに応えるため、皇學館大学や近畿大学工業高等専門学校等の高等教育機関とのつながりを強化し、今日的な課題やニーズに応じた講座を実施して行く必要があります。今後は、自己研鑽のための講座だけではなく、地域住民が学習した成果を地域づくり活動へとつなげる取組を進める必要があります。

○ 放課後子ども教室については、協議の上１教室が新たに開設となり、また、休止していた教室を合わせて７教室の実施となりました。引き続き、地域内での子どもの居場所づくりとして重要な事業であることから、未実施地域に開設への働き掛けを継続し、市内全域で子どもたちが放課後や週末等を安全安心に過ごせる居場所づくりとともに多様な体験活動が行われていくよう促進する必要があります。

○ 名張市子ども会連合会の解散もあり、子どもたちに多様な経験を積む機会を確保するためにも名張Ｋｉｄｓサポータークラブや青少年育成市民会議が果たす役割が一層重要となり、今後、青少年育成市民会議の事業拡大を進めていく必要があります。

○ 近年、青少年の非行件数は減少していますが、不審者情報の増加や全国的にＳＮＳによる青少年が被害者となる事案が発生しています。引き続き警察や学校、地域など関係機関・団体と連携を密にし、子どもたちの現状把握に努め、子どもたちを見守る体制を一層強化していく必要があります。

○ 図書館では、令和５年度来館者数が１４０，３８６人で、前年度対比１４，５０１人の増となりましたが、コロナ禍以前の水準とは、まだ隔たりが大きく、今後も利用者ニーズを的確に把握し、図書館業務委託事業者等と協働して、サービス向上に努めなければなりません。

○ 「名張市デジタルアーカイブおきつも」サイトについて、経費の節減をしつつ、内容の充実を図ると共に情報発信を進める必要があります。

７.今後の方向性

○ 名張市生涯学習推進協議会の機能を高めるための研修会等を実施し、地域住民が自己研鑽を続けることができるように努めます。また、教育委員会においても人材育成するための講座を実施するとともに、学んだ人たちがその学習成果を地域に還元し、市民全体の絆を作り上げていく場の構築に努めます。

○ なばり学の進捗により、郷土学習に対する市民の関心が高まっています。なばりカレッジや出前トークなどの機会を通じて、「ふるさと名張」の情報発信に努めます。また、市民ニーズが多様化している中で、関係団体や高等教育機関等と連携し、地域課題解決につながる講座や、青少年の社会参加活動につながる事業の実施に取り組みます。

○ 放課後子ども教室については、子どもたちが放課後や週末等を安全安心に過ごせる居場所づくりや多様な体験活動が行われるよう働き掛けるため、未実施地域での立上げに向けて順次協議を図ってまいります。また、すでに実施している教室間の情報交換ができる機会設定に向けて検討していきます。

○ 青少年ボランティアである名張Ｋｉｄｓサポータークラブが継続的に活動できるよう、技術の向上や活動機会の提供等を引き続き支援していきます。地域によっては青少年ボランティアの立上げが進められていることから、名張Ｋｉｄｓサポータークラブの派遣を含めて協力し、進めていきます。

○ 地域全体で子どもを守る取組として、「子どもを守る家」事業の普及による不審者対策や「名張少年サポートふれあい隊」による夜間パトロール等を引き続き行い、地域ぐるみで非行や犯罪から子どもを守る体制の充実・強化に努めます。また、名張警察、学校、名張少年サポートふれあい隊、青少年補導センター等の関係機関、団体との情報共有などにより、更に連携を深め、子どもを守る体制を強化します。

○ 図書館においては、引き続き、市民が必要とする図書館資料の確保に努めるとともに、県内外の図書館とのネットワークを活用することにより、資料を適切に提供します。また、図書館業務委託事業者と協働して市民の学習意欲を高める取組を行うことや、関係団体やボランティアなど多様な主体と連携することで、利用者の多様なニーズに応えるよう努めます。あわせて、多様化・高度化する利用者ニーズに対応するため、指定管理者制度の導入も視野に入れた抜本的な見直しを進めていきます。

○ 「名張市デジタルアーカイブおきつも」サイトについて、より一層の充実を図るとともに、学校及び関係機関とも連携を図り、教育現場での活用はもとより、広く市民に活用いただけるよう広報や活用講座の実施などにも取り組み、郷土愛を育んでいきます。

○ 図書館設備の老朽化による男女トイレの洋式化及び床面乾式化の改修工事を令和６年度内に実施し、図書館サービスの向上を図ります。

おはなし大会（図書館）

ジュニア司書（教育センター）

ととのえる

生涯スポーツができる環境をととのえます

１.この施策で目指すもの

生涯を通して自主的にライフスタイルに応じたスポーツ・レクリエーション活動に親しみ、健康で、はつらつとした暮らしを営むことができる環境をつくるため、スポーツ関係団体や地域との連携を密にし、生涯スポーツ社会の実現を目指します。

そして、利用者のニーズを把握しながら、ニュースポーツの普及やイベントの開催、スポーツ・レクリエーション施設の整備について計画的に進めていきます。

また、スポーツ技術の向上や競技スポーツ人口の拡大を図るため、各種大会の開催や指導者の育成などに努めます。

２.取組内容

○ ライフスタイルに応じたスポーツ・レクリエーション活動の充実に取り組みます。
○ スポーツ活動を通じたまちづくりの活性に取り組みます。

３.主な取組の成果

新型コロナウイルス感染症が５類感染症に移行したことから、市民がスポーツ・レクリエーションに親しめる機会のイベント等を通常規模として開催しました。また、新たに県の「みえ子ども・子育て応援補助金」を活用した「初めてのスポーツ」応援事業として、「３×３バスケクリニック」や「ファーストスポーツ」を開催するとともに、市制７０周年記念事業として名張ひなち湖マラソン大会を開催しました。

公益社団法人日本ホッケー協会（ＪＨＡ）の創立１００周年記念事業の中で、令和５年１１月に名張市が「公式ホッケータウン」として認定を受けたことから、はなの里スタジアム（市民ホッケー場）において令和６年３月９日、名張市ホッケータウン認定証交付式を開催しました。併せて、一般社団法人青蓮寺・百合が丘地域づくり協議会が、ホッケーパーソンとして、公益社団法人日本ホッケー協会より表彰されました。

４.施策指標（目標）の進捗及び達成状況

評価する内容		基準値	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	進捗率
週に１回以上スポーツに親しんでいる市民の割合（%）	目標	―	―	―	―	48.0	
	成果	41.5	40.5	―	―	―	0.0%
市民一人当たりの年間体育施設利用回数（回）	目標	―	―	―	―	6	
	成果	3.8	4.8	―	―	―	45.5%
総合型地域スポーツクラブの認定団体数（団体）	目標	―	―	―	―	7	
	成果	5	5	―	―	―	0.0%

５.施策達成のために取り組んだ主な事務事業

No	事務事業名	担当室名	概要及び目的	今後の方向
1	保健体育総務費（スポーツ活動振興費）	市民スポーツ室	各種イベント等の開催を通じ、市民がスポーツ・レクリエーションに親しめる機会の創出に努めました。 ＜主なイベント等＞ ・なばりスポーツフェスティバル２０２３ ・なばり元気発信フェスタ２０２３ ・市制７０周年記念事業名張ひなち湖マラソン大会 ・親子で楽しく身体を動かそう（アクティブ・チャイルド・プログラム体験会、スポーツ少年団による体験教室） ・美し国三重市町対抗駅伝選手派遣等支援 ・指導者研修会 ・指定管理者等によるスポーツ・レクリエーション事業	継続
2	総合型地域スポーツクラブ創設支援事業	市民スポーツ室	スポーツ振興くじ助成の採択を受け、あかめ総合スポーツクラブ設立準備委員会に対し、クラブ創設の財政的な支援及び助言等を行いました。	継続
3	武道交流館いきいき改修事業	市民スポーツ室	名張市武道交流館いきいきの乗用エレベーターに係る受電盤及び同制御盤の不具合に伴う交換等を含めた改修工事を行いました。	完了
4	中央公園電気設備改修事業	市民スポーツ室	名張中央公園内の高圧ケーブル及び電灯ケーブルの更新工事を行いました。	完了

６.成果を踏まえた課題や現状

○ 市民がライフスタイルに応じてスポーツ・レクリエーション活動に親しむことができるよう、引き続き身近な地域での活動場所の提供や、スポーツ・レクリエーションを始めるきっかけづくりとなるイベント、周知啓発などに取組み、更なるスポーツの日常化を図る必要があります。

○ 老朽化した体育施設等について、指定管理者制度による施設の円滑な運営、利用者へのサービス向上を図ることや、施設の安全対策及び延命化を図る必要があります。

○ 市民プールに関しては、現有施設に対して改修（ろ過機・更衣室等）が必要である一方、市民、とりわけ小学生以下の子どもたちの夏季におけるニーズの高い施設となっています。また、伊賀地域で唯一大会開催が可能な５０メートルプールを保有していることから、名張市水泳協会から利用再開の強い要望を受けているところです。また、スポーツ推進審議会から市民プールの在り方等の検討について答申も受けた中、民間活力の導入を含めた今後の在り方に係る検討を進める必要があります。

○ 国体で実施予定であった各種目について、三重県の助成を活用し、関係機関・協会と連携し、大会等を開催する中で、必要な施設整備を行い、市民の機運向上に取り組む必要があります。

○ 名張市体育施設等における大会や合宿を行うに当たっては、スポーツツーリズムにつながるよう、指定管理者はもとより、関係協会及び関係部署との連携を図る必要があります。

○ 令和５年１１月に本市が「公式ホッケータウン」として認定を受けたことから、「ホッケーのまち なばり」の推進に当たり、更なる競技の普及啓発はもとより、ホッケー競技を通じた地域の活性化に取組む必要があります。

７.今後の方向性

○ 市民が自主的にスポーツやレクリエーション活動に親しむ環境をつくるため、スポーツ関係団体や指定管理者、地域等と協議や連携を図りながら、身近な地域での活動場所の提供や体育施設等の利用促

進を図るとともに、スポーツ・レクリエーションを始めるきっかけづくりとなるイベントの企画・実施、周知啓発などに取り組みます。

○ ３０・４０代でスポーツに親しむ割合が低い傾向がある中、親子参加型イベントの開催などを通じて、子育て世代を対象に、身体を動かす大切さ、楽しさを知るきっかけづくりを図るなど、スポーツ人口の裾野を広げる取組を進めます。

○ 市民プールに関して、関係協会との意見交換や民間事業者への調査などを行い、民間活力の導入も含めた今後の在り方に係る検討を進めます。

○ 国体で実施予定であった各種目については、関係機関・協会と連携し、大会等の開催をはじめ必要な施設整備に当たっては、県の「レガシーを活用したみえのスポーツ支援事業補助金」を活用するなどし、事業推進に努めます。

○ 名張市体育施設等における大会や合宿を行うに当たっては、指定管理者、関係協会及び関係部署との連携を図りながら、スポーツツーリズムにつながるよう取組を進めていきます。

○ 老朽化した名張市体育施設等の改修、修繕に当たっては、限られた予算の中で優先順位を付け、また補助金等を活用するなど、適切に必要な改修、修繕等を行っていきます。また、体育施設等においては、利用者の安全確保及び利便性を重視し、長寿命化を意識した計画の策定を進めます。

○ 「ホッケーのまち なばり」の推進に当たっては、関係協会や地域等と連携し、更なる競技の普及啓発とともに、ホッケー競技を通じた地域の活性化に取り組みます。

○ 次期スポーツ推進計画の策定に向けて、これまでの取組成果・課題等の総点検を行うとともに、スポーツニーズを把握するため市民アンケートを実施します。

ホッケータウン認定書交付式

親子で楽しく身体を動かそう

（ファーストスポーツ事業）

ターゲットバードゴルフ

（なばりスポーツフェスティバル２０２３）

基本目標全体に対する総評

１.行政評価委員会における総評

ヒアリングの結果、以下の点を踏まえ、引き続き、施策の取組目標の達成に向けた各事業の推進を図っていただきたい。

○　施策１「学校で元気な「ばりっ子」をはぐくみます」については、各施策指標が目標値を超えており、適切に取組が進められていることが確認できる。目標値について、全国平均を上回っているところであるが、上方修正した目標値に向けて更なる取組を進めていただきたい。また、小中学校施設は老朽化に伴い、整備計画を基に計画的な改修が進められているところである。本年度は、校舎内の児童生徒が利用するトイレの洋式化整備が終了することから、引き続き、利用状況や優先順位等を勘案し、体育館の多目的トイレ等の整備を計画的に進めていただきたい。

○　施策２「文化をはぐくみ、次世代につなぎます」については、名張藤堂家邸跡や郷土資料館の入場者数は新たな企画展などの開催もありコロナ禍前の人数に戻りつつあるが、文化や芸術の更なる発信を行うため、施設の利活用に向けた検討を進めていただきたい。あわせて、名張藤堂家邸跡等のギャラリー利用等を希望する声もあることから、実現に向けた具体的な検討も進めていただきたい。また、オオサンショウウオの交雑種が本年７月に特定外来生物に指定されたことから、制度内容の確認を行い飼育の適切な管理を行い、この機会も好機と捉え、特別天然記念物であるオオサンショウウオの保護と共に、他部局と連携した情報発信を図っていただきたい。

○　施策３「青少年の健全な育成環境と生涯学習社会をつくります」については、昨年度総評で指摘した放課後子ども教室について、引き続き、未実施地域への取組と支援を進めていただきたい。あわせて、市議会からも要望のある放課後子ども教室と放課後児童クラブとの一体的運営について、関係部局等と研究を行っていただきたい。また、青少年を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中で、青少年が課題や悩みを相談する多様な窓口を設けることは大切であるが、利用実績の状況や、他部局・他機関との窓口の重複といった確認を行い、より効率的で利用しやすいものとなるよう検討いただきたい。

○　施策４「生涯スポーツができる環境をととのえます」については、ホッケー場の整備やテニスコート改修による全面利用開始などの要因もあり、施策指標の「市民一人当たりの体育施設利用回数（年間）」は増加傾向にあるが、「週に１回以上スポーツに親しんでいる市民の割合」は前年数値を下回る状況である。引き続き、子育て世代への新たな取組を行うなど、スポーツ人口の裾野を広げる取組を進めていただきたい。また、市民プールの今後の在り方については、審議会の答申及び非常に厳しい財政状況も踏まえ、市公共施設全体の整備の方向性も視野に検討を進めていただきたい。

２.教育委員における総評

各施策の検証・分析を踏まえ、以下の視点も考慮し、施策の取組目標の達成に向けた各事業の推進を図ること。

〇施策１（学校で元気な「ばりっ子」をはぐくみます）

保育園・幼稚園等から小学校の接続に当たって、特別な支援や不安感など児童の状況は多岐にわたることから、関係機関等との連携を密に行い、引き続き、きめ細やかな支援を行うこと。特に、教員自らも子どもの育ちに関する情報を得るため、保育園・幼稚園等と情報交換を行う取組を進めていくこと。また、全国的にも特別な支援が必要な児童生徒が増加していることから、支援員や介助員、学習サポーターの配置、教員間での連携やサポート、発達検査や教育相談といった対応や体制について、継続した取組を行っていくこと。

〇施策２（文化をはぐくみ、次世代につなぎます）

伝統文化の後継者確保について、引き続き取組が必要であることから、魅力ある情報発信や参加しやすいイベントの開催等を計画的、継続的に実施していくこと。あわせて、各学校に応じた取組により進められている「なばり学」の学習成果について、市民センターなどの様々な場で発表することで、学びを深めるとともに市民の関心が高まるよう名張の魅力を情報発信すること。また、次年度は大阪万博が開催されることから、関係機関・団体等と協議の上、文化財や歴史、オオサンショウウオなどの資源を活用し、本市のプロモーションを進めていくこと。

〇施策３（青少年の健全な育成環境と生涯学習社会をつくります）

地域住民の身近な学びの場として、市民センター等で行われる生涯学習講座等の充実を図ることに合わせて、学んだ成果や内容を子どもたちを含めた地域へ還元する循環型生涯学習の取組を進めること。また、放課後子ども教室など放課後や休日の子どもの居場所づくりが重要となっていることから、未実施地域への継続的な働き掛けを行うとともに、関係部局と連携し、子どもの居場所づくりに向けた取組を進めること。そして、名張市社会教育委員会議による提言を基に、関係機関と協議等を行っているところであるが、生涯学習センター機能としてのネットワーク構築に向け、早期に取組を進めること。

〇施策４（生涯スポーツができる環境をととのえます）

公益社団法人日本ホッケー協会より「公式ホッケータウン」の認定を受けたことも合わせて、引き続き、「ホッケーのまち　なばり」として、大会や合宿の誘致などを通して、地域の活性化を図っていくこと。あわせて、スポーツクライミングやアーバンスポーツといった若者に人気のあるスポーツにおいて、本市にゆかりのある選手が世界大会に優勝するなど身近なスポーツの一つとなりつつあることから、引き続き、体験機会の創出などの調査及び研究を進めること。また、老朽化する体育施設等の改修・修繕に対しては、長寿命化を意識した計画の策定により計画的に実施していくとともに、市民プールの今後の在り方など丁寧に検討を行うこと。